巻頭言

同窓会誌創刊号をお届けします。

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会は 2015 年 6 月 6 日に設立されました。その折に「同窓会 設立記念誌」を発行いたしました。また、2016 年 8 月 25 日には「同窓会設立報告号」を発行いたしました。これらの段階では編集規則も編集委員会も存在しませんでしたが、2016 年 8 月 27 日に行われた役員会で同窓会誌編集規則が正式に制定されました。これでようやく形が整ったことになり、今回正式に同窓会誌創刊号の発刊に至りました。ただ、未だに名称が定まっておりません。親しみやすい、愛称のようなものがあれば大変良いと思います。会員の皆様からもご提案があれば広く受け付けたいと思います。同窓会の事務局に皆様のアイデアをお寄せください。規則の制定とともに、編集委員会のメンバーも決まりました。編集委員長は編集規則に広報担当の役員がなるということになっていますので、私、重川が担当させていただくことになりました。力不足ではありますが、出来るだけの努力をしていきたいと思います。また、副委員長には井川満氏、編集委員として岸本展氏、田中紀子氏が当たることになりました。編集委員全員で、この同窓会誌を少しでも良いものにしていきたいと思っています。

さて、今まで総会を 2 回開催いたしましたが、その折に京大数学同窓会にゆかりのある方を招いて講演会を開催いたしました。設立総会の折には、野呂順一氏、森重文氏を講師に迎え、その講演内容は「同窓会設立報告号」に収録されています。第 2 回の総会の折の講演会には広中平祐氏を講師に迎えることが出来ました。このように各界の著名な方を講演者として迎えることができ、設立したばかりの同窓会としては、力強い後押しを頂いた気がいたします。今回の同窓会誌には、この広中氏の講演記録も収録されています。戦時中の話から始まる、大変面白い話ですので、皆さん是非お読み下さい。三木氏、松本氏には連載の形で、今回も登場していただいています。

数学教室内では、年度末に卒業式を行っていますが、京大数学同窓会はそのお手伝いをしています。実態を言えば、同窓会が主導となって、理学部事務で形式的に手渡されていた卒業証書の授与を、教室として行うよう働きかけた、ということです。これが 2 年前の話です。そして、今回の同窓会誌では、その卒業生の中から何名かの方に文章を寄せていただきました。数学教室を卒業して、新たに同窓生になられた方々です。今、の人たちの言葉といえると思います。この同窓会誌には、過去を語る言葉があり、そして今を語る言葉もあることになります。それは、同窓会という組織を通して、過去と現在とが繋がっているという象徴ではないでしょうか。同窓会というものは、そうした世代を超えての人と人との交流の場を与えるということが重要な存在意義だと思います。そのための手助けが少しでも出来ればと、我々も頑張っていきたいと思います。皆さんのご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会
同窓会誌編集委員長　重川 一郎